

5年1組 国語科学習指導案

場 所 5年1組教室

1 単元名 ニュース番組を作ろう

2 教材名 ニュース番組作りの現場から

3 単元のねらい

【関心・意欲・態度】

- ・ニュースの話題設定や取材に進んで取り組み、ニュースの伝え方を工夫しようとしている。

【話すこと・聞くこと】

- ・児童会活動・クラブ活動・6年生の活動などの校内の話題について、班ごとにニュースを伝え合う中で、語句の定義・事例紹介・引用・対話・適切な資料提示・構成の工夫などをしながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすることができる。

【読むこと】

- ・自分たちのニュース番組作りに生かすために、説明文「ニュース番組作りの現場から」を読み、「ニュース番組作りの過程で大事なこと・気をつけること」を読み取ることができる。
- ・自分たちのニュース番組作りに生かすために、新聞記事を読み、編集の仕方や記事の書き方について学ぶことができる。

4 単元における主な言語活動 小学校学習指導要領解説 国語編のp78より

「話すこと・聞くこと」の言語活動例のア

資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする言語活動

相手に対して説明や報告をするときに、資料を提示しながら発表することや、それらを聞いて助言や提案をする活動である。

準備した説明や報告の発表原稿にふさわしく、相手の理解を深められるような資料を提示することを求めている。適切な資料の選択や作成と、それらを活用した話し方が重要となる。

資料としては、本や文章、実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などから適切なものを用いることになる。また、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示、スピーチ原稿や資料への目配りの仕方、相手の反応などに注意しながら話させるようにすることが必要となる。

5 本単元のねらいに関わる学年の児童の実態

(1) 関心・意欲・態度 (○：できている □：課題である)

○インタビューしたり取材したりする活動に興味をもつ児童が多い。

○1学期の話すこと・聞くことの単元「インタビュー名人になろう」の学習を通して、取材相手から情報を詳しく聞こうとする態度が見られるようになった。

□進んで新聞を読む、ニュースを視聴するなど、メディアの伝え方に関心をもつ点に課題。

(2) 話すこと・聞くこと (○：できている □：課題である)

○初めに結論を言い、理由を後から述べる話し方のできる児童が多い。

○1学期の話すこと・聞くことの単元「インタビュー名人になろう」の学習を通して、取材相手の返答を受けて、問い返しをしたり感想を述べたりできる児童が増えてきた。

□対話・引用・資料提示・構成の工夫など、話題を工夫して伝える点に課題がある。

(3) 読むこと (○：できている □：課題である)

○4年生の2学期に『『伝え合う』ということ』の単元で、記事の書き方や編集の仕方を学んだ。

6 研究テーマに関わって

(1) 学習のユニバーサルデザイン化

①提示資料におけるキーワード化・色分け

- ・ニュースを初めて聞く相手の立場に立ったとき、「伝える情報を精選し、情報量を制限すること」が重要である。提示資料を作成するときは、伝えたい内容を十分に吟味し、キーワード・キーセンテンスだけ書くようにする。
- ・読みやすくする視覚的支援として、「提示資料の行ごとに文字の色を変える工夫」をした。

(2) 協同的に学び合う学習集団の育成

①「話題別グループ交流」と「発表班でのグループ交流」の位置付け

- ・目的に応じて、2種類のグループ交流をする。
- ・一つ目は、「話題別グループ交流」である。単元の導入の話題決定の段階で、委員会活動・クラブ活動など、話題別にグループを作る。そして、発表内容が重複しないように、話し合って内容の割り振りをする。
- ・二つ目は、「発表班でのグループ交流」である。発表班は、生活班である。グループ交流をして、話題の紹介順、司会者と取材者との対話の仕方等、内容の検討や発表練習をする。

(3) 言語活動の充実を目指した単元指導計画のあり方

①指導事項及び言語活動を系統的・発展的に配置した年間指導計画（年間）

- ・1学期、単元「インタビュー名人になろう」で、インタビューの仕方を習得した。本単元では、1学期に習得したインタビューの仕方を活用し、6年生やフリーの教師に取材する。

②第3次を中心とした言語活動の充実（各単元）

- ・本単元のニュース番組作りのポイントは、「話題の限定化・準備の簡略化」である。限られた時間数でニュース番組を作るために、「話題を限定し、より少ない準備で、より短時間で、分かりやすく印象的なニュース番組を作ること」を目指した。
- ・まず、話題や取材対象を、校内に限定した。話題は「児童会の委員会活動・クラブ活動・6年生の活動・フリーの先生の仕事内容」である。
- ・準備の簡略化を目指し、提示資料には、模造紙は使わず、4つ切りの画用紙を使った。

③習得・活用のサイクルを生み出す系統的・発展的な単元構成（各単元）

- ・第1次に、「新聞記事を読む」言語活動を位置付けた。これは、読むことの言語活動例のウ「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。」に当たる。ニュース番組と新聞、どちらも「事実を伝え、資料を提示しながら説明する点」に共通点がある。新聞記事を読むことで編集の仕方や記事の書き方等を習得し、後のニュース番組作りで活用する。

(4) 協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業のあり方

①児童が自分の願いをもち、学習を振りかえる場の設定

- ・個人練習の際に、個人課題を決める。その後、班ごとのリハーサル・班同士でのリハーサルの導入で個人課題を発表する。終末で振り返りをする。

②言語活動の充実を目指した工夫改善

- ・本時は、「次のニュース番組の発表に向けて、班同士でリハーサルを行う時間」である。
- ・工夫改善の一つ目は、「授業の導入での、代表の班によるニュース発表」である。これにより、学級全体で「助言・提案の仕方を学び合う機会」とする。
- ・工夫改善の二つ目は、「班同士でニュースの発表を見合い、助言・提案をする活動の位置付け」である。班同士でペアを組み、互いにニュースの発表をし合う。その後、助言や提案をし合う。この活動により、次のニュース番組の発表に向けた改善点が明らかになる。

③協同的な学び合いを生み出す指導・援助

- ・本時における「協同的な学び合い」とは、「班同士で助言や提案をすること」である。そのためには、助言や提案をする観点を明確にする必要がある。そのための手立てが、「ニュースの伝え方のポイント表」と「ニュースの伝え方の評価カード」である。ポイント表は黒板に掲示し、常に確認できるようにする。評価カードは児童に手元に置いて活用させる。

(5) 他の教育活動との関連

- ・単元終了後、4・5・6年合同集会を開き、ニュース番組を発表する。下級生である4年生は、ニュースの内容や発表の工夫などを学び、5年生への憧れをもつ機会とする。最高学年の6年生にはニュースの発表を評価してもらい、5年生が自信をもつ機会としたい。

7 単元指導計画（全13時間）

時間	主な学習活動	指導・援助
1	①教師によるニュースのモデル発表を見る。 ②本時の課題を確認する。 単元の目標を確かめ、学習の見通しをもとう。 ③教師の説明を聞き、単元の目標と計画を理解する。	①ニュースの発表の仕方を理解させるため、導入で「T1とT2によるニュースのモデル発表」をする。 ③授業の終末で「家で新聞記事を切り抜き、次時に持参すること」を予告する。
2	①新聞記事を教師が提示し、本時の課題を確認する。 新聞記事にはどんな工夫があるのか、見つけよう。 ②自分が集めた新聞記事の工夫を見つけ、ペア交流する。	①工夫を見つける視点を板書する。 ア どんな情報がのっているか。 イ どんな構成を取っているか。 ウ 分かりやすく印象的にする工夫は何か。
3・4	①説明文「ニュース番組作りの現場から」を音読する。 ②本時の課題を確認する。 説明文を読み、ニュース番組作りの過程で大事なこと・気をつけることは何か、読み取ろう。 ③「一人読み」の後、ペア交流・全体交流をする。	③課題を見つけられない児童のために、答えの段落の番号を板書する。 ③全体交流の途中で、必要に応じてニュース番組のVTRを見せて、理解を深める。
5・6	①本時の課題を確認する。 ニュース番組の話題を班ごとにわりふって、班内で役割分担をしよう。 ②各自で話題を考えた後、全体交流する。 ③班で話題を分担後、話題別グループで交流する。 ④司会者・取材者など、班内で役割分担をする。	①話題を決める条件として、「身近に取材できること・来年度に役立つこと」を挙げる。 ②話題の主候補は以下のとおり。 ・児童委員会活動・クラブ活動 ・6年生の活動（ファミリー活動、修学旅行、愛校当番など） ・フリーの先生の仕事内容
7・8	①本時の課題を確認する。 ニュース番組の発表メモを書き、読み合って助言や提案をしよう。 ②発表メモを書いた後、ペア交流・班交流をする。	①文末まで書かず、キーワードだけ書く、記号化するなど、発表メモの書き方のポイントを板書で示す。 ②発表メモを書くことが困難な児童は原稿を書いてもらい、よいこととする。 ②発表メモと共に掲示物も作成する。
9	①本時の課題を確認する。 分かりやすく、しかも印象的になるように、ニュース番組の発表練習をしよう。 ②班ごとに発表練習をする。	②計測係はストップウォッチを使ってタイムを計る。制限時間の5分間を超えないようにする。 ②適切な時間や機会に資料を提示することを助言する。
10 本時	①本時の課題を確認する。 班同士のリハーサルで助言や提案をして、より分かりやすく印象的なニュース番組にしよう。 ②班同士でリハーサルを見合い、助言・提案をする。	②助言・提案が十分に出ない場合は、司会役が「ニュースの伝え方のポイント表」を指差して、「話し方についてはどうだったか」など問いかけて、ポイントを再確認する。
11・12	① 本時の課題を確認する。 分かりやすく印象的になるようにニュース番組を発表し、よかった点、助言や提案を伝え合おう。 ②班ごとに発表した後、よかった点等を伝える。	①よかった点、助言や提案を伝えることができるように、発表前に聞き手はメモを取ることを確かめる。 ②4・5・6年合同集会でさらによい発表にするために、受けた助言や提案は記録するよう指示する。
13	① 本時の課題を確認する。 単元で学んだこと・身に付けた力は何か、書きまとめ、練習しよう。 ②各自で書きまとめた後、班内で交流する。	①書きまとめる際には、自分が受けた助言や提案の内容を記述するように助言する。 ②班交流では、4・5・6年合同集会に向けたためあてや改善点を明らかにする。

取材期間（話題化から疑問化へ・再取材）



4・5・6年合同集会：5年生によるニュース番組の発表（体育館）

8 本時のねらい

より分かりやすく印象的なニュース番組にするために、班同士でリハーサルを見合い、語句の定義・事例紹介・引用・対話・適切な資料提示・構成の工夫などの観点から助言や提案をし合って、ニュースの伝え方を工夫改善することができる。

9 本時の展開（10／13）

過程	主な学習活動	指導・援助
つかむ	① 本時の課題を確認する。 課題：班同士のリハーサルで助言や提案をして、より分かりやすく印象的なニュース番組にしよう。 ② 代表の班のニュース発表を聞き、助言や提案をする。 Aさん：（助言）バドミントンの話題でスマッシュなどの打ち方の説明をしたほうが分かりやすい。 Bさん：（提案）司会者の「次の話題は」という台詞に合わせて、資料を上に掲げた方が印象的になる。	① 代表班のニュース発表の始めに、班の全員が個人課題を発表するよう指示する。 ② 助言や提案が十分に出ないときは、黒板に掲示してある「ニュースの伝え方のポイント表」を指差し、「資料提示についてはどうだったか」など問いかけ、ポイントを再確認する。
考える	③ 個人練習を行う。 Aさんの個人課題 取材したときに印象に残った台詞を引用する。 ④ 班内でリハーサルをする。	④ 班内でリハーサルをするときは、他の班に発表内容を見せないように、壁際を向いて行うよう助言する。 ④ 発表の最初に、全員が個人課題を言うよう指示する。
広げる・深める	⑤ 班同士で見合い、「ニュースの伝え方のポイント表」を踏まえて、助言・提案を行う。 【ニュースの伝え方のポイント表】 <話し方>① ゆっくりと、間を考え、抑揚を付けている。 ② 結論・理由の順で述べており、分かりやすい。 ③ 「難易語句」の説明があり、分かりやすい。 ④ 事例や「引用された言葉」が印象的である。 ⑤ 話の構成に工夫があり、印象的である。 <対 話>① 身体と目線を向き合わせて対話している。 ② 司会者と取材者による対話がかみ合っている。 ③ 司会者の返答や感想が効果的である。 <資料提示>① 資料の文字数や色分けなどが適切である。 ② 資料をタイミングよく提示している。 ③ 資料への指差しなど工夫があり、分かりやすい。 Bさん：愛校当番について取材したAさんに助言で、引用するとき「次の言葉が心に残りました。それは『いつもありがとう』という言葉です。」という順で話すと、さらに印象的になると思う。 ⑥ ペアの班からの助言・提案を踏まえて、修正する。 Aさん：助言と提案を受けて、各自で練習を1回だけしたら、班で通して練習してみよう。 ⑦ 班同士で再度見合い、向上した点を確認合う。 Cさん：引用部分が1回目よりもさらに印象的になった。助言・提案を踏まえて改善された。	⑤ 掲示物の「ニュースの伝え方のポイント表」を各班に1枚配布し、壁に掲示するなどして、リハーサルを見合う場面で活用しやすいようにする。 ⑤ 計測係はストップウォッチを使ってタイムを計る。制限時間の5分間を超えないようにする。 ⑤ 助言・提案をする際は、班長または学習長が司会を務めることとする。助言・提案が十分に出ない場合は、司会役が「ニュースの伝え方のポイント表」を指差し、「話し方についてはどうだったか」などと問いかけて、ポイントを再度、確認する。 ⑦ ニュースを再度発表する際には、最初に「どこを修正したのか」を伝えることで、向上した点を聞き手の班が見つけやすいようにする。
まとめる	⑧ 個人課題などについて振り返りを書く。 Aさんの振り返り Bさんの助言で、引用がさらに効果的になった。	⑧ 「だれの」「どんな助言で」向上したのか、具体的に書くよう助言する。 ⑧ 次回はニュース番組の発表の本番であることを予告する。